



碧南ロータリークラブ週報

第2725回例会 平成27年3月11日(水)

- 会長 石橋 嘉彦
- 幹事 伊藤 正幸
- 会場監督(SAA) 清澤 聡之

2014-2015 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp



- 会報委員 奥津順司・藤関孝典・岡本彰人

●齊 唱

ロータリーソング「我等の生業」

●本日のメニュー

和風弁当 大正館

●本日のお客様

元愛工大名電高校 野球部監督 中村 豪様

会 長 挨 拶

久しぶりの雪の朝でした。愛知県の最終降雪日の平均は3月9日という事で、今日の雪はそんなに遅い雪ではないようです。10年前の3月25日愛知万博の時にも雪が降っています。



石橋嘉彦会長

本日は、東日本大震災からちょうど4年となります。鉄道や道路の復旧は90%を超えたようですが、災害公営住宅の完成は16%程で、避難住民は23万人弱と、まだまだ復興したとは言いがたい状況です。特に福島原発に関しては、目処がたっていない状況だと思います。

しかしながら先週の卓話であったように災害はいつ、どこでどんなかたちで起こるか分かりません。この災害を今後の教訓として活かしていくためにも今日の日を忘れない事が重要だと思います。所感を述べまして挨拶と致します。

幹 事 報 告

本日は3点ほどご報告させていただきます。

- ・ 他クラブの例会変更等はございません。
- ・ 3月4日開催の第9回理事会の報告を幹事報告書に記載し



伊藤正幸幹事

てございます。お目通しをお願い致します。

- ・ 次週 18 日の例会も卓話時間確保のため、例会開始前の 12 時よりお食事をお召し上がり頂けますので、よろしくお願い致します。

副 幹 事 報 告

次年度の RI 第 2760 地区の地区研修協議会についての再度のご案内を致します。先週のメールボックスの中に、次年度の役員、理事の皆様と、出席義務の委員長の皆様にも再度のご案内をさせて頂いております。



新美雅浩副幹事

5 月 10 日の日曜日の 10 時に碧南商工会議所駐車場を出発致します。一日がかりになりますが、よろしくお願い致します。当日の交通手段と夜の懇親会を名古屋で行いますが、こちらのご確認を入れておりますので、未登録の方はお早めによりよろしくお願い致します。ご協力の程、よろしくお願い致します。

委 員 会 報 告

<出席奨励委員会>

総会員数 68 名 (内出席免除者 16 名の内出席者 9 名)出席者 54 名	
出席対象者 54/61 名	出席率 88.52%
欠席者 14 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率 100% の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

石橋 嘉彦君 本日、中村先生には卓話をよろしくお願い致します。少し良い事がありました。

長田 昌昇君 仲間の皆様にはお世話になり楽しかったです。老人を遊んでくれてありがとう。

木村 徳雄君 } 長田昌昇さんにお世話になりました。
新美 真司君 }
角谷 信二君 }
杉浦 栄次君 }

新美 真司君 中村先生、ようこそ碧南へ。

山中 寛紀君 本日で丁度あの震災から丸 4 年が経ちました。復興が未だ充分とは言えぬ東北の各被災地ですが、来月仙台の学会に出張の折、4 年ぶりで女川の診療所全壊した、大学医局を通しての友人に会って来るつもりです。

鈴木きよみ君 本日の講師、中村豪様をご紹介させていただきます。



中村 豪様

「人生のレギュラーを目指せ」 元愛工大名電高校 野球部監督 中村 豪様

こんにちは。中村でございます。最近ではネクタイの締め方も忘れるぐらいのんびりしております。鈴木さんにご紹介頂きましたが、息子さんと3年間一緒に生活をして、当時はよくがんばっておったなと懐かしんでおります。野球という狭い視野の中でやってきた、35年間の拙い経験を話させていただきます。

現在は吉良高校へボランティアでお手伝いへ行っております。選抜出場のある豊橋工業と練習試合をやって3対2で勝ちました。5年前吉良高校へ行った際には野球部員が9人しかおりませんでした。

35年間を振り返ると色々な想いがあるわけですが、私が名電の監督へ就任した際に高野連へ挨拶に行きました。そこで、名電は卓球が高技ですから「野球は我々がやるから、名電はピンポンやっとなれ。」と言われました。それががんばるきっかけにもなり、私学4強に数えてもらえるようになったわけですが、中京大中京の杉浦監督さん、享栄の柴垣さん、東邦の阪口さんというライバルがたくさんおりました。甲子園はほど遠いなという印象でしたが、工藤公康の時にベスト4で最高の成績でした。工藤も今年からソフトバンクの監督になり、どうやってやるのかと楽しみにしております。そして鈴木一朗、山崎武司の話をさせて頂こうと思っております。

甲子園にいくまでには8回勝たないといけません。私は決勝で5回負けております。野球はピッチャーから試合を作っていくわけですが、私は攻撃が好きでバントが嫌いでした。今の名電の監督は教え子の倉野で、倉野は徹底的にバントで攻撃して成功しました。おれに逆らっているんじゃないかなと思うぐらいです。みんなどのように甲子園に行くかを考えています。

野球は根性で、体力、気力、努力です。そして負けて泣くという青春のドラマがあるわけですが、感激が少ない現代において、青春時代の感激は大変尊いものだと思います。現代野球はビデオ、パソコンなどを駆使して、科学的に分析する野球に変わってきております。教える側もデータのコーチングが必要になってきております。偶然勝てるようなチームはまずありません。敵情視察でデータを分析し、弱点をつき、という時代になってきております。

甲子園には怪物がいるという噂がありますが、本当に怪物はおります。耐え難い緊張の中、凄まじいプレッシャーがかかっている中で、薫をもつかむ思いです。しかし、感激が希薄である現代ですので、甲子園は貴重な存在であると思います。

人を追い越さない限り、レギュラーはありません。野球は自分の存在を確かめる貴重なものです。自分自身、また周囲への責任を野球から教えたかったです。プロになるのは一握りですが、その一握りが勝者ではありません。レギュラーになれたかで勝者、敗者が決まるのではなく、人生のレギュラーを目指せというテーマでやってきました。

あの工藤が1年生の時ですが、彼はいつも一言多くて3年生からにらまれていました。3

年生からボコボコにされるのが理不尽で、1年生を連れて脱走した事がありました。その時はなだめて連れて帰ったのですが、私は工藤に、自宅から学校まで走ってこいと言い、着く頃には朝練の準備は終わっているというのを計算して気を遣っておりました。彼は3年間それをやり続けました。当時から根性はありました。

彼が初めて私に優勝旗をもたらしてくれるのですが、当時、元ジャイアンツの槇原が甲子園で投げている工藤が、「先生、槇原は甲子園で投げているなあ。」と言っていたので、「お前が負かしてやればいいじゃないか。」と言ってあげました。その年に槇原と県大会の決勝で試合して工藤がめちゃくちゃに振ったバットがホームランになり、槇原に勝ちました。

ある名門高校と甲子園予選で試合した際に、工藤がデッドボールを当てられてケガをします。高野連からは止められておったわけですが、血だらけでマウンドへ上がりなんとか勝ちます。その日に後輩が寝ずに工藤のケガした箇所を冷やすわけです。今でもOB会をやるとおれが冷やしたから今の工藤さんがあるんです、という話になります。

その年に甲子園にいき、1回戦で長崎西とあたりなんとノーヒットノーランを達成するんです。行ったら1回戦負けだと言われていたのが、勝って大喜びで、2回戦です。日本ハムで活躍していた中村稔が最後のバッターで、「もうここまでやったら名古屋にも誇って帰れる。」と言ってホームランのサインを出したら、なんと甲子園のラッキーゾーンへ打って、サヨナラホームランです。そこで普段モテない名電坊主達が一躍クローズアップされ、旅館前が大変だった記憶があります。中々強い運があったなという印象があります。

山崎武司ですが、お人好しのたけちゃんマンとあって、おちよくられていたわけですが、これから山崎のお人好しが生きてくる気がしております。山崎の代のピッチャーが金田正一さんの甥っ子で、3年生になったら黄金バッテリーですごいチームが作れるなと期待しておりました。そしたら金田が伸びずに、山崎の返球の方が早いんですよ。

3年生の時には負けてしまいますが、2年生の時ですが、一つ上にドラゴンズピッチングコーチの近藤真一がいました。近藤と名電があたった時に、山崎を敬遠するんです。未だにこの話になります。彼はドラゴンズで補欠でした。帰ってくる度に、おれは試合に出れば30発は打つよと試合にも出ないのに言っていました。高木さんから星野さんへ監督が代わり、試合に出るようになったら本当に30発打つようになりました。普通10年補欠していたら潰れてしまいますが、今ではいい解説もするようになっていて、大変珍しいパターンだと思います。

イチローですが、彼は豊山の中学からきていました。豊山の小学校6年生の時に作文を書いておりました。

「僕の夢は一流のプロ野球選手になる事です。そのためには中学、高校で活躍しなければなりません。活躍するには練習が必要です。僕は3歳の時から練習を始めています。3年生の時から今までは、365日中360日は激しい練習をやっています。だから一週間中、友達と遊べる時間は5、6時間です。そんなに練習をしているのだから、必ずプロ野球の選手になれるのだと思います。そして、中学高校で活躍して、高校卒業後、プロになるつもりです。そしてその球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズが夢です。ドラフト入団で契約金は1億円以上が目標です。」

6年生がこのような作文を書いておりました。現実になっているので大したものだなと思いますが、こんな事も言っています。

「自分は投手と打撃が得意です。大会を通して投手を見てきましたが、投手として自分が一番だと思います。打撃では県大会4試合のうち、ホームランを3本打ちました。そして僕達は1年間負け知らずの野球ができました。だからこの調子でこれからもがんばります。そして僕が一流の選手になって、試合に出られるようになったらお世話になった人に招待券を配って、応援してもらうのが夢の一つです。ともかく、一番の夢はプロ野球選手になる事です。」

6年生で目標を持ちながらやっていたのはすごいです。ちなみに松井は山下さんをニューヨークへ何回も招待していたようですが、私は1回も招待された事がないので、その内に声がかかるとおもうと思っています。夢に対して全く迷いがなく、夢を素直に信じたのが今のイチローを支えているのではないかと思います。夢を叶えるために、重きにを背負い坂道を登るが如しを小さい頃から実践していたのではないかと思います。

中学の時も成績は優秀で、音楽と英語以外オール5でした。高校へは野球特待ではなく、勉強特待で申請しておりました。他の学校からもたくさん誘いがあった中でなぜ名電を選んだかですが、適当に強くて適当に注目されているチームがいいとの事でした。あんまり強いチームだと自分が注目されなくなってしまうから、という理由でした。またグラウンドや屋内練習場など、いい施設がある場所がいいとの事でした。そして甲子園が目的ではなく、プロ野球の選手にして下さいとの、親父と本人の選択でした。監督からは、人との接し方、生き方を学びましたと本か何かで見た気がします。辛い事をいっとるなど思った記憶があります。

彼ら親子の考え方は、ピッチャーは肩の消耗が激しいから肩を作るだけにしたい、という事でした。しかしプロ野球に入るにはピッチャーの方が確立高いからピッチャーでやれ、と言いました。

甲子園予選の決勝でも若手を先発で起用したらワンサイドゲームになってしまい、イチローを出す機会がなかったですが、甲子園で打てなくなるよりもここで負けて6、7割の打率で終わるので負けてもほっとしていました。

4打数6安打打て、というぐらいヒットゾーンは広がったです。親父さんと二人でやってきた結果だと思います。

彼は人前では適当に練習をしていました。みんながいなくなってから一人で練習するようなタイプでした。努力する姿は見せないという美德が今でもあるようです。彼は当時から持続力、発想力が優れておりました。行き着く最後は、人間力です。

イチローや山崎が勝利者ではなく、それぞれがそれぞれの場所で色々な花を咲かせればいいと思っています。

次回例会案内

平成27年3月25日(水)

卓話「剣道・武士道・兵の道」 会員 渡部哲也君